

# 第25回国際視野画像学会に参加して

研究の集大成から最先端の内容まで  
実りある4日間



2024年7月30日から8月2日に「第25回国際視野画像学会」が英国・カーディフで歴史的な猛暑の中、開催されました。

講堂内でのTony Redmond学会長

IPS (Imaging and Perimetry Society) は、2年ごとに開催される国際学会で、視野と視覚に関する画像解析の研究についての発表と議論が行なわれています。参加者は主に視野の視覚研究を行なっている研究者が多く、医師の割合は少ないように思われますが、日本からの参加者の多くは眼科医です。そのため、発表内容は視覚生理に関する専門的な内容が多く、臨床医としてはそのすべてを理解することが難しい場合もあります。一方で、検査方法や結果に対して臨床医では思い付かないような新たな視点を得る機会になることもあります。

参加者は毎回150人程度で、1つの会場で4日間、朝から夜まで一

## IPS in Cardiff



近畿大学

准教授 野本 裕貴

緒に行動するため、海外の研究者との意見交換を行ったり、知り合いになったりすることが出来ます。実際に私が英国・Moorfields Eye Hospitalへ留学するきっかけを得たのも、2010年にスペイン領カナリア諸島で開催されたIPSでした。

2024年は7月30日から8月2日の4日間、Cardiff UniversityのTony Redmond先生がホストとなり、英国のカーディフで開催されました。カーディフはロンドンから鉄道で西へ約2時間の場所に位置するウェールズの首都です。会場はその中心部にあり、Cardiff UniversityのSir Stanley Thomas OBE Lecture Theatreでした。なお、この建物の名称は建設費の一部を寄付した実業家から付けられているようです。

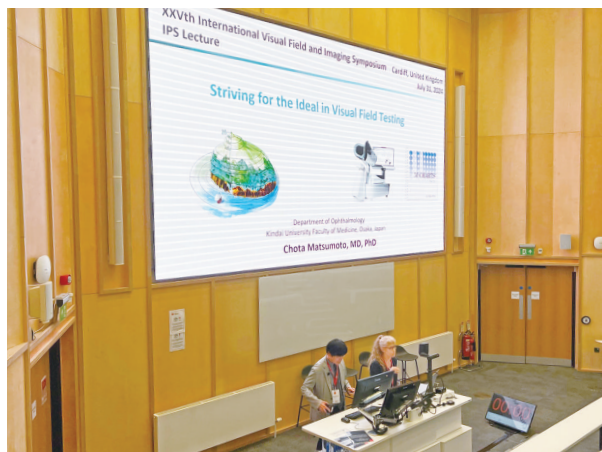
今回のIPSには、埼玉医科大学、東京慈恵会医科大学、北里大学、総合病院聖隷浜松病院、名古屋大学、岐阜大学、金沢大学、近畿大学、鹿児島大学(順不同)に所属する多くの日本の先生方が参加されました。

## 学会の発表内容

発表された内容は、レクチャーを含め57演題あり、日本からは10演題の発表がありました。

視野検査視標、視野検査条件、検査アルゴリズムstructure-functionの関係など、従来と同じく視野研究に関するものが多くあり、近年のトレ





松本長太先生によるIPS Lecture



学会会場

ンドであるタブレット端末やVirtual Reality (VR) ゴーグルを使用した新しい視野検査機器、AIを用いた新しい解析方法などもありました。そして、その中には臨床医として、現場で今後のスタンダードとなり得るか否かを見届けたいと思わせるものも多くありました。



ウェルカムパーティーにて  
左より私、David Garway-Heath先生、Roger Anderson先生、  
松本長太先生、Giovanni Montesano先生、朝岡亮先生、平澤一法先生

今回のIPS Lectureは、近畿大学の松本長太先生による“Striving for the Ideal in the Visual Field Testing”で、現在国内外で使用されているM-CHARTSやImo視野計を含め、松本先生のこれまでの研究とその成果をまとめた内容でした。  
Aulhorn Lectureは、Nomo Janssonius先生による“Counterintuitive issues in Glaucoma Progression”で、臨床医として緑内障進行評価に関する過去から現在までの知見を紹介し、その上でどのように診療を行なうかについての内容でした。



Cardiff Castle内でのディナー

Keynote Lectureは、開催校であるCardiff Universityより2人の先生の講演があり、Derek Jones先生による脳組織のイメージングと機能の関係を研究した“Focusing in on Tissue Microstructures with Advanced Neuroimaging”、James E Morgan先生からは障害を受けたRGCを早期に発見し、その修復に関する研究を内容とした“The Degenerating Retinal Ganglion Cell-Opportunities for Detection and Repair”の2つでした。それらすべてのレクチャーは、過去から現在に至るまでの研究の経緯、そして、現在も進行している最先端の研究内容の知見を得られる素晴らしいものでした。

## 観光と懇親会

過去のIPS参加記事を読まれたことのある方はご存じかもしれませんが、IPSは学会前日のウェルカムパーティーから始まり、初日夜のディナー、2日目の観光ツアー、最終日夜のクロージングバンケットなどのソーシャルイベントがあります。今回は学会場の近くにあるRoyal Welsh College of Music & Drama内のホールにてウェルカムパーティー、初日夜はCardiff Castleにあるレストランでのディナー、2日目はCardiff Castle見学とボートでの川下り、Cardiff Bayの散策が行なわれました。この日、カーディフは歴史的な猛暑となり、夕方になっても暑く、参加者は汗だくになりながら日陰を探しつつ観光を行いました。そして、観光以上に印象的だったのは、ウェールズの人々があくまでも“Welsh”として誇りを持っており、近年は英語とは異なる独自の言語（例えば「Good morning」はWelshでは「bore da!」）を大切にし、次世代にも伝えようとしていることでした。最終日の夜にあるクロージングバンケットでは、各国の参加者が出し物を披露してパーティーを盛り上げます。出し物では主に母国語で各国の歌を歌うのですが、参加者が少ない国の場合では1人で歌った後に多くの拍手が起こります。英語に苦手





カーディフ観光ツアー Tony Redmond学会長夫妻を囲んで



日本チームによるクイズ「IPS Olympic」



Cardiff Castleでの集合写真

意識を持っているせいか学会ではやや存在感の薄い日本人参加者ですが、毎回この時が最大の見せ場となります。今回も松本先生の司会のもと、「上を向いて歩こう」——Sukiyaki Song——をわが国の参加者全員で歌った後、学会長のTony Redmond先生、Vice PresidentのAllison Mc Kendrick先生の2人に、「IPS Olympic」と題したクイズを行ないました。各社視野計のボタン音や刺激視標呈示時の音を聞いてもらい、視野計のメーカーや機種を答える形式で会場を盛り上げました。なお、勝者はAllison先生で、松本先生からわれわれが手作りした「IPSゴールドメダル」が授与されました。

そして、この場でも国内外の参加者と研究内容やそれ以外の話をするこどで、より親睦を深めることができます。このようにIPSは研究と懇親の両方において、魅力のある学会となっています。

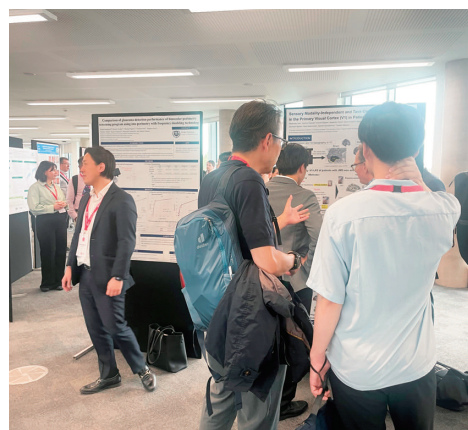
### IPS、JIPS（日本視野画像学会）へのお誘い

近年、VRゴーグルやタブレット

端末、AIなどの新しい機器・技術が研究分野だけでなく、眼科診療にも少しずつ導入されています。IPSで発表される内容は、研究と臨床の橋渡しとなる可能性を秘めたものが多く、今後もその傾向は強くなっていくと考えます。これらにご興味のある医師や視能訓練士、検査員の方々（眼科クリニック勤務を含む）はぜひIPSにご参加ください。

次回2026年はスイスのベルン、2028年には2018年に金沢で開催されて以来10年ぶりに日本で開催予定となっております。国際学会からのスタートは難しいと思われる方は、まず2025年5月31日から6月1日に埼玉県で開催されるJIPSに参加いただけたらと思います。

最後に、学会期間中の写真を提供いただいた北里大学の平澤一法先生、近畿大学の杉野日彦先生に厚く御礼申し上げます。



熱い議論が交わされたポスターセッション